広　報

市民リポーターだより

No. 7

『真冬』の就職事情

リポーター　今　井　由貴子（東台3丁目）

立ち直りのきっかけが訪れないままに長びく構造不況。「就職冬の時代」といわれて久しいのですが、若年層の就職戦線は街の活性化にも大いに影響することでもあり、若者の地元定着を大きな課題として抱えるわが市にとって現在の状況は非常に頭の痛いものです。

今回は、この問題に今井リポーターが挑んでくれました。

私は今回、ハローワーク大館を訪ねて、若年層の就職問題についてお話を伺ってみました。

なぜこのテーマを選んだのかというと…。実は、首都圏で働いていた私の友人が去年の七月に帰郷したのですが、彼女が「就職先がない…（事務職希望）」と言うのを聞いて、大館市内の就職戦線は実際どのような状況にあるのだろうか、と興味を抱いたためです。

「ハローワーク大館」とは市民の皆さんに親しみを持ってもらうための愛称で、大館公共職業安定所のことです。私は今回の取材で初めてハローワークを訪れたので、企業からの求人票の数の多さや、職探しに来ているかたが意外に多いことに、ちょっと驚かされました。ただ、見学させていただいた数枚の求人票には、経験、勤務時間帯、職種などのただし書きがあり、求職者にとってはなかなか厳しいぞ、というのが偽らざる感想でした。

いまや完全な買い手市場に

企業からの求人票は多いときで一日に十件、少ないときでも二、三件は寄せられているのだそうです。一年のどの時期に求人が多い、ということはなく、年間を通して大体平均したペースだとのこと。しかし、現在の状況はやはり厳しく、極端な話ですが、景気の良い時期には年間百五十人程度を採用していた企業が、現在では景気の低迷で十～十五人程度の採用にとどまっているのだそうです。全体的に見ても、求人数が好況期の半分から三分の一にまで減少しているそうで、これではなかなか求職者の希望どおりにはいかないわけです。求職者が企業を選ぶ時代から、企業が人材を選ぶ時代へと変わってしまったことを改めて認識させられました。

私は今年二十三歳になりますが、思えば数年前、私が短大を卒業するという年から急激に就職状況にかげりが見え始めたのでした。友人どうしで就職活動をしていたときなど、企業説明会や各種セミナーへ出向いても「今年は女子はとらない」、「特別な資格がなければ採用しない」と言われたものでした。おまけに短大の就職課からも「今年は求人数も少なく就職は困難でしょう。せめて去年ならなんとかなったんだけど」などと頼りないことを言われる始末…。しかし私たちはまだ良かったようです。その次の年は氷河期、そのまた次の年は超氷河期と言われるほどの就職難となり、景気の低迷も続きました。という昔話をしている場合ではありませんね。

ハローワーク大館では、就職を目指す女性の約七割が、当初、事務系職種を希望して相談に訪れるのだそうです。求職と求人のバランスを比較してみると、特に事務的職業において有効求職数に対する有効求人数の割合（倍率）が低く、女子の場合、この分野での求人倍率は〇・一六（例えば十六人の求人に百人の求職者が殺到）と、いかに厳しい状況であるかがはっきりします。

大学は出たけれど…

この状況は、高校生の就職戦線にもたらす影響も大きいようで、ここ数年、高卒者の進学率が上がる傾向も見られるとのこと。就職浪人を避けたいためなのかもしれませんが、先延ばしされた就職との戦いは、数年後には一層厳しいものとなって襲って来るのです。

「大学は出たけれど…」というフレーズを耳にしたことがありますが、当人たちの心境はいかがなものでしょう。ちなみに、ハローワークでは「景気は底を打っており、現在より悪くなることはないだろうが、急激に好転することもないだろう。また、景気が上向きになったとしても、企業では一気に求人を増やすことはせず、横ばいプラスアルファ程度で推移することになるだろう」と予想しています。

今年は秋田桂城短期大学が開学しますが、同短大卒業後の進路を考えると、看護学科については心配ないとしても、他の二学科については受け皿が少ないので楽観は許されず、不安が残ります。全市あげてのフォローが必要なのではないでしょうか。

自己研鑽（けんさん）と積極性がカギ くじけないで頑張って！

私の友人をはじめとした若年層の求職者の皆さんに、少しでも助けになればとハローワークでお話を伺ってみたのですが、依然状況は厳しい、ということを再確認したにとどまり、大変残念です。求職者にとってつらいことではありますが、理想にとらわれずに現状を冷静に分析し、必要な資格を身に付けるとか、ある程度妥協するとかしなければ、この苦境を切り抜けることは難しいようです。ただ、ハローワークの窓口では就職に関する様々なアドバイスが受けられますし、求人票の中には、経験や資格などによる選抜をせずに早い者勝ちの採用とする場合もあるといいます。まめに足を運んで情報収集に努めるのが得策であるのはいうまでもありません。皆さん、くじけずに頑張ってください。

市でも、この就職難に対して抜本的な策をとれないものでしょうか。従来は製造業の雇用創出が目立っていましたが、今後は求職者の現状を直視し、特に事務系職種の雇用拡大に力を尽くしてもらいたいものです。